

佛蘭西革命と奈破崙（第三回）

高田 友

（十一）

テルミドールの反動（一七九四）の後、穩健派、國民公會を制す。かくて獨裁政治は終焉を迎へたりといへども、翻つて經濟政策逼塞するに至る。自由を認めたるがゆゑに物價上昇すれば、思ひきや、サンキュロット運動（無產者の權利擴大運動）抑壓せられて、白色テロ（反革命テロ）隆盛を窮めむとは。

一七九五年、國民公會は新憲法を制定し、制限選舉（基準は財産額）による二院制の議會の上に總裁政府の君臨する體制定れり。

制限選舉とは言ひ條、成人男子七百萬のうち、五百萬人に參政權を與へたれば、普通選舉と言ひて大過なからむ。

總裁政府は十月に成立。總裁五人ありて共同統治、毎年一人づつ改選せらるゝとの定めなりき。

然りと雖も、右派も左派もこれに飽くなく、政局の混亂えやは筆舌に盡すべき。然而、憤懣の外に向ひたればならむか、異國と戦ふや赫々たる勝利の續く、實に歴史のアイロニーとこそはなりにけれ。

（十一）

ここに頭を擡げたるが奈破崙・ボナパルト（1769～1821）。伊太利系佛蘭西人にして、高田屋嘉兵衛と生年を同じうす。一八一五年、奈破崙を破つて破滅に陥れたるウエリントン將軍（後に首相）、三箇月半前に生誕してありき。

此人、コルシカ島の貴族の息子なりしが、コルシカ島は奈破崙の生まるる前年までは「ジエノヴァ共和國」（伊太利の藩國といふべきか）の領土なりき。ジエノヴァ經濟危機に陥りたるがゆゑに、國土の一部を佛蘭西に賣り拂ふを餘儀なくせられ、奈破崙生誕のをりには、佛蘭西領とは化したりけり。奈破崙なる字も、漢字なれば東洋人かと思ひきや、當初はナポレオーネと讀みて伊太利風の發音なりき。幼沖にして佛蘭西へ渡り、佛蘭西語を學びたるはそれより後なりき。

然則、奈破崙は伊太利人にてあらずやとの議論、死後二百年を経るも絶ゆるなし。

奈破崙は佛蘭西の士官學校を卒へたりき。成績は褒むるには價せざれども、數學と世界史のみは秀逸なりきとの傳説ありて、梅檀は嫩葉より芳しと評するの人なきにしもあらず。砲兵將校となりて革命軍に加はり、總裁政府成立せむとするに當りて、王黨派鎮壓に功を成して名を擧ぐ。他の將校いづれもいづれも臆して拱手傍觀するに、奈破崙ひとり躊躇なく

群衆に砲撃を加へたりとは、豈本朝信長を彷彿せしめざらむや。

一七九六年二十七歳といふに伊太利方面軍司令官に任ぜらる。時失せずして出撃の機會を得、サルディニアと喫太利の聯合軍を撃破す。剩へ、喫太利を恫喝して、「カンポ・フォルミオの和約」を締結し、第一回對佛大同盟を壊滅せしめたり。

(十二)

一七九八年、奈破崙は埃及エジプトへ遠征し、大勝を博して此地を占領す。當時埃及は英國に支配せられたれば、すなはち英吉利イギリスを叩きたりとの義なり。然るに、奈破崙は陸軍。陸軍は戦捷に歡呼するといふに海軍は惨敗を喫す。佛蘭西艦隊、アブキールアブキール（埃及の灣）に英國ネルソンの艦隊と戦ひて全滅し、奈破崙は援軍を失ひて埃及に孤立するに至る。已而すでにして、英・喫・露は第二回對佛大同盟を結成し、佛蘭西包圍網を完成せむとす。而して國內にては政局混亂して已まず。これを知つたる奈破崙、軍を埃及に放置したるまま、五百人の親兵を率ゐて佛蘭西へ歸還し、我が意を通さむと圖る。

政府高官の中にて奈破崙を支持する一派あり、クーデター計畫を立案す。中に兩人あり、身命なけがら擲つて若き英雄を支ふ。すなはち、後の奈破崙政權の中核たるタレーランとフーシェなりき。

（已哉やんぬるかな、表裏定まりなきは世の習ひとこそはいへ、十五年の後タレーランは奈破崙に背叛して自らはウィーン會議を主催、歐羅巴の運命を我が手に握る。フーシェは奈破崙の下に警察廳長官なりし所、タレーランと共謀して奈破崙の爲にユダとなる。然而つひにはタレーランに逐はれて野垂れ死にの非運を味はひたりとは）

ブリュメール（霧月）十八日、太陽曆にては一七九九年十一月九日、奈破崙は軍を動員して總裁政府を打倒し、「臨時統領政府」を樹立す。改めて憲法改正せられ、國民投票ありて奈破崙は過半の支持を得るに至る。三人の統領選出せられて、政府の頂點に立つ制度とはなりたりけり。第一統領に選ばれたる、今や佛蘭西の寵兒となりたる奈破崙なりしは言ふに及ばず。

第一統領となりたるも戰鬪指導を停止したるにはあらず。電光石火の如くに喫太利に侵入し、一八〇一年には勝利を得て媾和をぞ強ふる。

而して英國。奈破崙と對決してありし英首相は小ピットなりしが、漸く失政ありて退陣、政權の座はアディントンに移る。新首相は宥和派なれば戦はずして屈し、一八〇二年、「アミアンの和約」を締結するに至る。

前年、一八〇一年にはローマ教皇廳と「宗教協約（コンコルダート）」を結ぶ。革命政府は基督教を彈壓し、ヴァチカンと斷交するに至りてあれど、奈破崙これを撤回して、背教の

汚名を免れむとす。佛蘭西にカトリックを復活せしめたりといひて過言ならざるべし。

露西亞とは未だ干戈^{かんか}を交ふるにあらざれば、この後一八〇四年まで、奈破崙戦争は休戦状態にぞ入りんぬる。

國內にては奈破崙の衆望いやが上にも赫々たるものあり、アミアンの和約成りてこそは終身統領に選出せられたれ。この時期奈破崙第一の功績は「奈破崙法典」の制定なりき。「私有財産の絶対」および「法の下の平等」を規定したるは革命の集大成なりと言ひて何爲指^{なんすれぞ}彈せらるるの所以あるべけむ。

(令和七年四月二十四日)